

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500056		
法人名	社会福祉法人 古平福祉会		
事業所名	認知症グループホーム 風花 (1F 夕風フロア)		
所在地	古平郡古平町大字浜町645番地		
自己評価作成日	令和 4年 7月15日	評価結果市町村受理日	令和 5年 4月 11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192500056-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・その人らしい生活や生き方を大切に、介護計画や日々の支援にあたっています。</p> <p>・加齢とともに、行動範囲が狭くなっていますが、日常の関わりを大切に常に笑いや笑顔を意識して、日々支援を行っています。</p> <p>・グループホームにて通所の利用も受け入れており、お互いに交流の機会になっています。</p> <p>・身体機能が維持向上できるように、日々の生活の中にも全身体操や嚙下体操、レクリエーションを行ない、楽しみながら体力の維持が出来るよう心がけています。機能訓練指導員に訪問して頂き、運動指導も行っています。</p> <p>・毎月の行事や花壇を通し、地域の交流や四季を感じ取れるよう支援しています。</p> <p>・入院された方に対し、コロナ禍のため、お見舞いには伺えませんが、時々病院へ連絡を取り病状の確認をしています。また、ご家族が遠方の場合、入院先にて何か困った事態が起きた時など、手を差し伸べる必要がある時は、可能な範囲で対応していくように努めています。</p> <p>・月1回、訪問診療を取り入れることで、通院による入居者の体力的な負担の軽減と、医療機関との連携を深めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は古平町中心部から少し離れた静かな住宅街に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には複合福祉施設「元気プラザ」や協力医療機関、消防署などがあり、商店やバス停も徒歩圏内にある。事業所内は広めの廊下を挟んで居間と食堂、居室が配置され、多目的室は大きな窓があり、日差しが多く入り込む設計になっている。共用空間は常に清潔を心がけ、利用者が四季を感じられるように壁には利用者の作品や季節に合った飾り物で家庭的で明るい雰囲気になっている。事業所を運営する社会福祉法人は古平町内で障害福祉施設を運営しており、事業所の運営支援や人材育成、介護研修の実施などの体制を整えている。前年度からディサービス支援事業にも取り組み、利用者の皆様と共に楽しいひとときを過ごせるよう地域密着型事業所として支援サービスの向上に努めている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度も、コロナ禍により地域密着的な支援は難しかったが、風花の理念であるその人らしい生活や地域とのつながりを大切にしている。また、介護計画書作成やカンファレンスの際も意識して協議している。	事業所理念を玄関やフロアに掲示し、職員会議などで唱和、確認を行っている。地域密着型サービスの意義を踏まえ、日々のケアにおいて家庭的な生活が過ごせるようにサポートすることを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、行事を通じた交流の機会などが減っているも、通所を共用型へ事業変更してからはグループホーム内での交流が増えている。今年度は、地域のお祭りもあり、野外で献酒を観覧している。	コロナ禍のため、「元気プラザ」での交流会は中止となっているが、前年度から事業所内において、デイサービス事業に取り組み、地域密着型の支援を目指している。昨年は町内の「琴平神社祭り」が行われ、利用者も参加している。また母体法人が実施した花火大会も行われており、楽しいひとときを過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習など、依頼があれば例年受け入れている。コロナ禍になってからは、具体的な相談が無い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や行事報告、ヒヤリハットや事故報告などを行っている。その中で、委員より服薬用コップがあることを教えて頂き購入している。面会者へ日常の様子が伝わるよう面会室へアルバムを用意する案もあり、参考にさせて頂いている。コロナ禍により、会議が開催出来ない時は、資料を渡し承認を頂いている。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、民生委員、町役場関係者、利用者家族、町内会代表(女性)の参加を得て、年度の行事予定、ヒヤリハット事例、サービス評価などをテーマに話し合いを行っている。会議では利用者家族のアンケート結果についても報告を行い、今後の支援活動に意見や要望を活かしている。議事録については利用者家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、必要に応じて町職員とも相談や確認を取り合い、昨年度は保健福祉課と協議の元、訪問診療や集団ワクチン接種、職員の健診を形にしている。今年度は地域ケア会議へも参加している。	町役場担当者とは介護保険の更新や生活保護手続きなどについて相談、助言を得ている。感染症対策についての相談等、町役場担当者との連携を図りながら事業運営に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議に合わせ、身体拘束廃止委員会を開催しており、身体拘束の手引きや禁止行為を記載した小冊子を通した勉強会。リモートによる外部研修の報告会などを実施している。また、委員会の内容は、法人内の職員会議や虐待防止委員会、運営推進会議でも報告している。	身体拘束委員会、虐待防止委員会を設置し、定期的に職員研修会を開催し、職員全員が身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。玄関は日中、出入りがあれば、センサー音で分かるようしており、施錠は行ってない。夜間は安全のため、玄関は施錠している。	

認知症グループホーム 風花 (1F 夕風フロア)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、法人内の虐待防止委員会に出席している。内部研修にて、虐待予防チェックリストを年2回実施し予防を周知している。今年度も、リモートによる外部研修へ参加し報告会を検討中。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でも法人後見や任意後見を設立している。内部研修にて成年後見人制度・法人後見人制度・任意後見人制度などを学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書や重要事項説明書にそって説明や確認の上、同意を頂いており、解約の時も、その内容に沿って対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へご意見箱を設置。また、ご家族へ満足度調査のアンケートも実施。コロナ禍となり、面会の機会が減っているが、ご家族へ電話連絡の機会が増え、意向確認にもつながっている。入居者へは、食事アンケートを実施。日々の生活の中でも意向確認を大切にしている。	2か月ごとに「風花新聞」を発行し、利用者の日頃の様子やイベント行事の楽しい様子などを利用者家族に報告している。利用者に満足度調査を実施し、意見や要望、意向などを聞き、支援の向上に努めている。利用者家族の来訪、電話連絡の際に要望、意見を聞き、得られた情報は職員間で共有し、事業運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月法人全体会議にて各事業所の経過報告をしている。月1回の職員会議にも代表幹事や統括が可能な範囲で出席し、現場の状況を把握している。各ユニット会議の報告以外にも、管理者と職員間の個別の意見交換を大切にしている。	管理者は日常勤務の中で職員との会話を重視しており、会議を通して要望や意見について、出やすい雰囲気心がけている。母体法人の意向により、職員の資格取得や研修会への参加に取り組み、支援の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当以外にも、勤務状況により準職員と正規職員の差があり、努力や力量によっては、役職や委員への人事も行っている。資格を習得したい職員へは、必要に応じて奨学金制度も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過により、資格習得以外の外部研修の機会は減っているが、リモートなどネット上での研修の機会が増えてきた。法人内や施設内でも、定期的な内部研修を行い、必要な知識を学ぶ機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	余市グループホーム協議会への加入。また、月1回は法人内の介護保険部門会議へ出席。町内の地域ケア会議や社協デイ運営推進会議へも出席するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、ご本人やご家族から要望や生活内容を聞き取りアセスメントしている。入居後も安心できるよう声掛け聞き取りを意識して介護にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上で、入居申し込みや入居前訪問、入居後も面会の際などにご本人の様子を確認しあい、要望などを伺っている。コロナ禍となり、遠方のご家族とは必要に応じて電話を通した細目な情報共有も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの相談の時点で、ご本人やご家族へ意向や状況を確認している。また、担当ケアマネやサービス事業所を通して、状況の把握を大切に調整を行っている。必要によってはサービス事業所や病院先へ伺うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で会話を大切にし、趣味や得意な家事などを教えて貰ったり、一緒に行い信頼関係を築いていけるよう支援し、会議などで共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者をご家族と一緒に支え合いたい思いがあり、2ヶ月おきに新聞とお手紙を送付し状況報告をしている。他にも、日々の変化や通院の経過など、ご家族へ報告し意向確認をしている。外出の際は、福祉用具の貸し出しや送迎の協力をする事もあった。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、行きつけの理美容院へ出掛けたり、ご家族や知人の来訪時は、小上がりや居室にてゆっくり過ごして頂いていた。コロナ禍となり、面会のご家族のみ10分程度に留めている。マシに知人が訪れる事もあり、状況によるが窓越し面会などの対応をして可能な範囲で交流の機会を設けている。	馴染みのお店や理美容院、思い出のある場所に出かけたりと利用者の要望に沿った支援を行っているがコロナ禍のため、外出は出来ていない。利用者家族の来訪時はコロナ対策を施し、玄関内の制限された時間で面会を支援している。玄関には利用者が作成した作品やイベント行事で写した写真なども飾られ、来訪した利用者家族の楽しみにもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく関わり合えるように促しているが、場面によっては一人で過ごす時間も大切にしている。行事やレクなどの際は、それぞれ楽しめるよう席配置など工夫をしている。		

認知症グループホーム 風花 (1F 夕風フロア)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了の際は、個別にアルバムを作成しご家族へ渡している。退居後も、入院先での様子を伺ったり、必要に応じて、風花での情報を提供する事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の意向を把握出来る様に心掛けている。意志疎通が難しい方には、ご家族への聞き取りやご本人にとっての自立とは何か、フロア会議やカンファレンスにて協議している。	利用者個々のアセスメントシートを作成し、家族等からの情報を得て、利用者の思いや要望、意向を把握するように努めている。アセスメントシートは職員間で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントは、センター方式を活用し、ご本人やご家族から生活歴や在宅にて過ごされていた時の様子などを、教えてもらい記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調変化に気付けるよう、毎日体調の確認と共にバイタル測定を実施している。また、朝夕の引継ぎや記録を通し職員間でも共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントは6ヶ月おきに行い、ご本人やご家族の意向を確認し、全職員の視点を通して、現実的なプランを作成するよう心掛けている。また、毎月フロア会議を通し、介護計画の評価、日々のケアの気付きを共有し現状把握に努めている。	介護計画を短期6カ月、長期1年で更新し、利用者や利用者家族の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見をもとに担当職員が介護計画を作成し、利用者家族の承認を得ている。利用者の状況変化に際しては、都度、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日誌は、日常の様子や通院内容など色分けして記載することで確認し易くしている。また、ケアプランの目標が達成できたかを毎日評価し、毎月フロア会議にて評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	制度にとらわれず、可能な範囲でご意向に合わせた支援をしている。日用品や好物など日々の買物の他にも、郵便局への手続き、お墓参り、遺産分与の協議の場など様々な対応を行ってきた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り、敬老会等)への参加、古平高齢者福祉協議会へ加入し、盆踊りの復興にも力を入れていたが、コロナ禍により昨年度は控えている。しかし、状況をみて文化祭や展示会は可能な範囲で参加している。		

認知症グループホーム 風花 (1F 夕風フロア)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方でも、ご本人やご家族の意向に合わせ、在宅からのかかりつけ医へ通院介助している。また、月1回訪問診療を取り入れることにより、協力医と連携し、安心できる医療ケアを提供出来ている。	月1回の訪問診療を取り入れて、利用者の健康状態を確認し、希望する主治医の受診継続を支援している。適切な治療が受けられるよう記録票を作成し、かかりつけ医の受診支援を行っている。受診後の記録には同行した職員の意見や利用者家族の意向も考慮して、利用者の健康状態を把握している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の病状や服薬に不安のある時は法人看護師へ相談している。必要に応じて、駆け付けて症状の確認をして頂き、受診などのアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院に伝え、医師や看護師、ソーシャルワーカーと状況の共有をし、ご家族と共に早期退院が出来るよう支援している。現在は、コロナ禍のため入院中の面会は出来ていないが、退院の際は、事前訪問や連絡を取り合い、状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を伝え、医療面での限界や重度化による対応の厳しさなど、個別に合わせ段階的にご本人やご家族と話し合っている。医療面では、医師やご家族と話し合い適切な受け入れ先を決めることがある。	地域的な理由で医療面での24時間支援体制が難しいため、看取りは行っていない。入居時に利用者家族にその旨を説明して承諾を得ている。重度化した場合は都度、協力医の助言を得ながら、利用者家族の意向を含めて適切な入院先の紹介を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	館内には、AEDを設置している。普通救命講習の定期受講、今年度はコロナ禍により講習が中止となった為、内部研修で職員間で共有している。また、救急マニュアルをいつでも閲覧できるよう事務所に保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施。津波や原子力防災訓練も年1回実施。発電機や防災無線機を完備。他にも地震や風水害などの災害に備え、町の防災ハンドブックを参考に、敷地内や館内と落下物への環境改善を行い、防災グッズの内容も再検討している。	年2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。AEDを設置し、定期的に救急救命訓練をしている。自然災害を想定した訓練では事業所内に留まり、利用者の安全維持を確保する訓練にも取り組んでいる。冬期間の災害を想定し、発電機や暖房用ストーブを備えている。母体法人からの防災用品も備えている。	日頃より事業所における避難訓練は職員の認識も高く、利用者の安全確保に努めている。今後はコロナ感染症を含む、感染症対策を重点項目と考え、母体法人、関係機関との連携を図り、感染症対策マニュアルを作成して職員研修も行き、事業所として更なる安全安心な介護サービスが行われるように期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内の内部研修では、ご家族へ説明している個人情報保護基本方針の内容を確認したり、事例を通し相手の気持ちを理解するよう伝えている。	尊厳やプライバシー保護、個人情報については母体法人の研修などで学習をしている。日々のケアでは耳元で声をかけるなど、利用者の尊厳、プライバシーを守ることに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時折、ご本人が上手に訴えや思いを伝えられないことがあり、ご家族からの情報や日々の様子から察し、ご本人が何を伝えたいか模索しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	充分とは言えないが、入居者一人ひとりのペースが尊重されるように努めている。また、毎回ではないが、ニーズに合わせて個別支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院等の外出に合わせて外出用の衣類を事前に用意したり、ご本人に着る服を確認し、おしゃれを楽しみながら外出出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の皆さんへ年1回嗜好調査を実施。おかずは法人の厨房で調理しているため、一緒に盛り付けをしたり後片付けを手伝ってもらっている。時折、漬物作りやおやつ作りも楽しんでいる。	副食は法人の厨房で調理し、ご飯と汁物は事業所で作っている。イベントとして利用者に好評を得ている「にしん漬け作り」や「くじら汁作り」は利用者と職員が一緒になり、調理を楽しんでいる。またお正月、お雛様、クリスマス会のイベント料理も楽しみのひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態のリストを作成。食事量や水分量は個別に把握し記録している。嚥下障害のある方へはトロミやミキサー食を寒天で固形にするなど工夫している。月1回体重測定を行い栄養状態の把握もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後までは行えていないが、就寝前は必ず全員の口腔ケアを行い、入れ歯の消毒もしている。年1回歯科検診を実施しており、口腔内の不具合があれば、その都度歯科医へ相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している入居者も数名居るが、排泄チェック表に記録し、さり気無く声掛けしたりトイレ誘導を行い失敗を減らしている。日中はトイレでの排泄を支援し、夜間のみ身体状況に応じて簡易トイレやベッド上での排泄用品の交換をしている。	個々の排泄パターンを排泄チェック表から確認し、適時に排泄の誘導を行い、トイレでの自立排泄に努めている。誘導時には自尊心を損なわないように配慮し、声かけには気を付けるように努めている。	

認知症グループホーム 風花 (1F 夕風フロア)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食量や水分量を把握し、1日1L以上摂取できる様に目指している。又、最終排便を引継ぎ便秘の方が自然排便できるよう、マッサージやホットパック、適度な体操などの支援をしている。主治医へ下剤の相談もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は同性介助を基本とし、週2回を目安に支援している。一人ずつ湯を替え、湯温計や入浴剤の使用をしている。足腰の弱い方は、シャワー浴となるが足浴も一緒に取り入れている。一対一の会話を楽しみ、リラックスして入浴できるよう意識している。	希望の時間帯やお湯加減に配慮し、週2回の入浴支援を行っている。一人ずつお湯を換えて希望があれば入浴剤や好みのシャンプーを使用し、利用者がリラックスして入浴を楽しめるよう工夫している。利用者の体調や希望を考慮し、シャワー浴、足浴などの入浴支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて休息がとれるよう促し、ベッドでの仮眠時間を大切にしているが、生活のメリハリも意識し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたお薬説明書は、一つのファイルに綴じ常に確認できる様にしている。副作用など心配な時は病院や薬局、法人看護師へ相談している。錠剤が飲めない方は、粉碎の相談やお薬ゼリー、薬配カップ、服薬用コップの使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事の手伝いを通した役割作りを大切にしている。また、レクや行事以外にも、日々の関わりの中で笑いや楽しい時間を過ごせるよう意識している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの予防のため、行事や買い物、散髪などの外出介助は控えめにしている。温かい時期は、敷地内やテラスにて、時々日光浴を行い、たまにホーム周辺の散歩も行っている。	通常はテラスで日光浴をしたり、玄関前を散歩している。コロナ禍により外出する機会を控えているが、畑で収穫した野菜を手にとったり、庭で過ごす時間帯を長くするなどの工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は、紛失しても責任を負えないことをご本人やご家族へ説明し、その上で希望される方は自己管理され、通院や床屋、買物にて支払いをしている。管理が不安の方は、小口預かりや立替え払いも受け付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はあるが、自ら電話や手紙を書く方はいない。ご家族より電話を受け上手く意思疎通出来ない方には仲介に入り伝達することがある。希望のある方は手作り年賀状をご家族へ送っている。		

認知症グループホーム 風花 (1F 夕風フロア)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	独立した食堂と居間を中心に、居室や浴室、トイレが配置された明るく開放感のある作りになっている。小上がりもあり一人でゆっくり過ごせる場所となっている。観葉植物や日めくり、季節にあった装飾を掲示している。また、入居者と一緒に制作した貼り絵など展示している。	独立した食堂と居間を中心に居室や浴室、トイレが配置された開放感のある共用空間となっている。小上がりもあり、他の利用者との関わりを持ちつつ、ひとりでゆっくり過ごせる空間となっている。また観葉植物を育てたり、季節感のある飾り物にも心がけ、家庭的な温もりが感じられるよう工夫した空間作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、独りで過ごしたい時は居室へ戻られることが多い。また、廊下には小上がりが2か所とソファ1台設置。野外も敷地内にはいくつかベンチを設置し、くつろげる場を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、新しい物ではなく使い慣れた物を用意して貰っている。お茶碗やお椀なども自宅から持参して頂いている。日頃の作品やお祝いカードなども飾り、居心地良い空間を心掛けている。地震対策として必要に合わせ耐震マットなども配置している。	居間は日差しが入り、清潔に保たれている。使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、家族写真や思い出の品も飾られて、利用者が心地良く、安全に過ごせるよう配慮された居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差解消、手すりやナースコール、オール電化など安心できる環境を整えている。居室には表札をつけ、トイレ等にはピクトグラムを表示している。初めての方は、居室入口の目印を置きお部屋が覚えやすいよう工夫している。		